

SHOW HEYシネマルーム

★★★★

最後の恋, 初めての恋 (最后的愛, 最初的愛)

2003年・日中合作映画・118分

配給/松竹

2003 (平成15) 年12月20日鑑賞
<シネ・リール>

Data

監督: 当摩寿史

出演: 渡部篤郎/徐静蕾/董潔/陳
柏霖/石橋凌/吳汝俊

👁️👁️ みどころ

近代都市上海を舞台とした日本人男性(渡部篤郎)と中国人女性(徐静蕾)とのオシャレで悲しいラブストーリー。姉のミン(徐静蕾/シュー・ジンレイ)と妹リン(董潔/ドン・ジェ)という2人の美人女優を相手に渡部篤郎は静かな熱演。それにしてもこんな役はいいなあ、俺もやってみたい・・・。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

<オシャレで悲しい恋愛ドラマ>

主人公の早瀬高志(渡部篤郎)は日本の自動車メーカーに勤めるサラリーマン。友人の運転する車での交通事故によって愛する妻を失った心の痛手から立ち直れないまま、早瀬は今日、上海支社に転任してきた。

そんな早瀬をホテルで迎え、部屋の中で早瀬の自殺を発見したのは、ホテルのフロント係をしているファン・ミン(徐静蕾/シュー・ジンレイ)。ミンのおかげで早瀬は一命をとりとめた。しかし妻の死亡後、ずっと時計が止まったままだった早瀬にとっては、生命が助かったことに何の意味があったのか・・・?

他方、ミンは仕立て屋の父親と妹のリンの3人で暮らす平凡な上海娘。母親を亡くした後は、長女らしく父と妹の面倒をよく見ている上、料理の腕は抜群のしっかり者。しかしそんなミンには重大な秘密があった。

「死にたいのに死ねなかった」早瀬と「生きたいのに生きられない」ミン。こんな2人のラブストーリーはまさに、『最後の恋, 初めての恋/最后的愛, 最初的愛』というタイトルがピッタリ。実にオシャレで悲しい恋愛ドラマに仕上がっている。

<舞台は上海>

こんな2人のラブストーリーの舞台は上海。早瀬の勤務する会社やそのビジネスに関連する会社は超高層ビルが林立する近代都市上海の中心部にある。またミンが勤めるホテルや2人がデートするレストラン、コンサート会場などもすべて上海のおモテの表情だ。しかし、ファンシー家が住むのは、1920年代に建てられた古いアパート。上海にもまだこんな裏の表情がある。

ミンと早瀬との、出会いから愛の告白、そして悲しい別離に至るまでのラブストーリーが美しく近代的な上海のまちとともに描かれていく。日中合作映画にこんなオシャレな恋愛ドラマが登場してきたことは大きな驚きだ。

<私の注目点は美しい中国人姉妹！>

私にとってのこの映画の見どころは、何ととっても長女ミンを演ずる徐静蕾(シュー・ジンレイ)と次女リンを演ずる董潔(ドン・ジュ)の2人の美人女優。徐静蕾を見るのは今回がはじめてだが、「初恋のきた道」の章子怡(チャン・ツイイー)、「少林サッカー」の趙薇(ビッキー・チャオ)、「小さな中国のお針子」の周迅(ジョウ・シュン)と並ぶ、「中国4大女優(4小名旦)」の1人と呼ばれる美人女優で、チラシに写るその写真を見ただけでもすごい美人。

また、つい先日、久米宏のニュースステーションでは、「今、中国映画が元気！」というテーマで特集され、『HERO(英雄)』(03年)撮影のウラ話などが放送されたが、その中でこの『最後の恋、初めての恋』に

主演した徐静蕾が、今度は『私とパパ』という作品で、はじめて脚本を書き監督をつとめていることが報じられていた。彼女は1974年生まれだから、今ちょうど30歳。今後ますますその才能が発揮されることが期待される魅力的な女優だ。



【中国映画、初めて見る】映画『最後の恋、初めての恋』
ビデオソフト(発売) 株式会社 松竹映画

そしてまた、この映画で演ずるミンという薄幸のヒロイン役は実際にはまり役。「美人薄命」とはよく言ったものだ・・・。

これに対し、董潔は、張藝謀監督の『至福のとき』(02年)における盲目の少女役で強い印象を残した1980年生まれ女優。『至福のとき』は静かな役柄だったが、今回はこの映画のストーリーの牽引役。父や姉の愛情の下に天衣無縫に明るく生きるリンの役柄をうまく演じている。ホントに女優って、どんな役にでもなりきれものだと感心・・・。

<ストーリーの牽引役のリン>

ミンの妹リンは、ひょんなことから日本人に中国語を教える役目を押しつけられ、今日は上海大学のある教室で1人待っていた。ところが生徒はなかなか来ない。終了間際になってやっと到着した生徒の早瀬はやる気を見せず、「授業をやったことにして、やめにおこう」といふ加減な提案。「ホントに嫌なヤツ!」、リンはそう思い、「仕事を放棄するのは無責任だ」と抗議するが、早瀬は勝手に教室を出ていった。ところが、雨の中を1人帰っていくリンに対して傘を渡した早瀬は素直に謝り、自らは雨の中へ飛び出していった。そんな早瀬にリンは一目惚れ。その日以後早瀬への授業はリンにとってルンルンの時間となった。

しかし、世の中はリンが考えるほどそう単純ではなく、リンの淡い初恋はスナリと実ることはなかった。そればかりか、何と早瀬と姉のミンが・・・。こんな苦しい体験を経て、リンも少しずつ大人に・・・。

<面白い日本語、中国語、英語のチャンポン劇>

上海を舞台とした日本人男性と中国人女性のラブストーリー。さて、その言葉の壁をどうクリアするのか?それが現実的な問題となるはずだ。この映画では、早瀬はエリートサラリーマンだから、中国語はダメでも英語が得意。またミンはホテルのフロント係だからもちろん英語はOK。従って2人間の意思疎通と恋物語は英語によって成り立っている。

他方、リンの早瀬に対するアプローチはたどたどしい日本語。これは早瀬が中国語を喋れないからやむを得ないが、このリンの日本語は意外と達者だし、あんまりうまくないところがまた可愛いくていい。

さらに、早瀬が勤める自動車メーカーと上海の会社との「商談」は、当然ながら日本語と中国語のチャンポンだが、そこは真剣勝負。この映画は恋愛ストーリーだけではなく、このビジネスのストーリーもうまく描いている。従って早瀬がミンとの心の交流をバネとして、ビジネスの世界でも立ち直っていく姿が十分に納得できるストーリーとなっている。

<総評>

パンフレットには、「ニューヨークを舞台にした『めぐり逢えたら』『ユー・ガット・メ

ール』『オータム・イン・ニューヨーク』、ロンドンを舞台にした『ノッティングヒルの恋人』、フィレンツェを舞台にした『冷静と情熱のあいだ』・・・美しい街を舞台にしたラブストーリーの名作の数々に今、上海を舞台にした新たなる一本が加わった」と書かれているが、まさにそのとおり。

中国4大女優（4小名旦）の1人徐静蕾を相手に、堂々と恋愛ドラマを演じることができた日本人俳優、渡部篤郎に拍手。中国映画界には美人女優が花盛り。これらの女優の魅力をふんだんに発揮して、ハリウッド映画に負けない中国の恋愛ドラマの傑作をこれからも次々と製作してもらいたいものだ。大いに期待しよう。

2003（平成15）年12月22日鑑賞